

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|------------|
| 事業番号 | 070 | 事業名 | シルバーお助け隊事業 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 70歳以上の高齢者世帯や障害者世帯を対象に、日常生活におけるちょっとした困りごとを援助するサービスを提供します。 | | |
| 手段 | 日常生活におけるちょっとした困りごとに対し、公益社団法人文京区シルバー人材センターが会員を派遣して援助します。1回につき300円を申込者が負担し、区が実績にあわせてシルバー人材センターに補助金（1回につき1,300円）を交付します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------|----|------|------|-----|-----|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 利用件数 | 件 | 318 | 650 | 332 | 51% | 650 | | | 650 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 425 | 788 | 433 | 632 | | |
| 特定財源 | 212 | 394 | 394 | 316 | | |
| 一般財源 | 213 | 394 | 39 | 316 | | |
| 所要人員 B | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 687 | 681 | 677 | 694 | | |
| 総経費 E=A+D | 1,112 | 1,469 | 1,110 | 1,326 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|---|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | ①平成25年度は318件の実績がありました。主な作業内訳は家具移動100件、電球等の交換70件となっています。②平成25年度は前年度の353件から318件に減少しました。 | 【成果】 | ①平成26年度は332件の実績がありました。主な作業内訳は家具移動108件、電球等交換86件となっています。②平成26年度は前年度より14件利用件数が増加しました。 |
| 【課題】 | ①対象となる事由について、実態に即した柔軟な対応が求められています。②利用件数が減少しており、改めて本事業の周知や他の家事援助サービスとの差別化が必要です。 | 【課題】 | ①対象となる事由について、実態に即した柔軟な対応が求められています。②利用件数は昨年度とほぼ変わりませんが、リポーターが増えています。あらためて区報やチラシによる本事業の周知、他の家事援助サービスとの差別化が必要です。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | C | C |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①エアコンのフィルター掃除等軽易な作業に加えて、ドアの蝶つがい修理等、技能を有した登録会員がいてはじめて成立する難易度の高い作業依頼も増加しています。高齢者が日常生活の中で起こった困りごと（短時間でできる軽易なもので、継続性のないもの）の需要は依然として高いものがあります（シルバー人材センター実績報告より）。 | |
| ②本事業はシルバー人材センター会員がサービス提供を行っているため、会員の就業に繋がります。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|---|------|---|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 現状維持 | 今後の事業展開について、シルバー人材センターとも協議しながら、適切な補助を行っていきます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 |
| 27年6月末 | 現状維持 | 実施件数実績にあわせ、156千円の減となりました。 |
| | | ③ 所要人員の考え方 |
| 28年6月末 | 現状維持 | 1人×0.1=0.1人と設定しました。 |
| | | ④ 現状維持の理由 |
| 本事業については、今後高齢者の増加が予想されること等から、引き続き需要があると考えられますので、計画どおりの対応とします。 | | |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|------------------|
| 事業番号 | 071 | 事業名 | 民間事業者による高齢者施設の整備 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課 | |
| 目的 | 施設と在宅の両面で、介護を必要とする高齢者への支援を拡充するため、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びショートステイ（短期入所生活介護）施設を整備します。 | | |
| 手段 | 区有地の活用及び区独自の施設整備費補助制度の創設により、民間事業者を支援し、高齢者施設の整備を推進します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 進捗率 | % | 25 | 50 | 50 | 100% | 75 | | | 100 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|--------|--------|---------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 922 | 92,001 | 90,864 | 222,039 | | |
| 特定財源 | 0 | 0 | 0 | 20,023 | | |
| 一般財源 | 922 | 92,001 | 90,864 | 202,016 | | |
| 所要人員 B | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 3,434 | 3,407 | 3,383 | 3,472 | | |
| 総経費 E=A+D | 4,356 | 95,408 | 94,247 | 225,511 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|--|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 小石川五丁目区有地におけるショートステイ（短期入所生活介護）施設について、整備・運営事業者を公募し、事業者を選定しました。 | 【成果】 | 小石川五丁目区有地におけるショートステイ（短期入所生活介護）施設が、3月に開設しました。また、教育センター跡地における特別養護老人ホーム及び文京福祉センター跡地における介護老人保健施設について、整備・運営事業者を選定し、事業者による近隣住民説明会を開催しました。 |
| 【課題】 | 教育センター跡地における特別養護老人ホーム及び文京福祉センター跡地における介護老人保健施設整備・運営事業者については、質の高い介護サービスを長期にわたって安定的に提供することができず、事業者を選定する必要があります。 | 【課題】 | 教育センター跡地における特別養護老人ホーム及び文京福祉センター跡地における介護老人保健施設整備について、土壌汚染、埋蔵文化財の試掘調査を行うとともに、既存施設の解体工事及び新規施設の建設工事にあたっては、施設の整備・運営事業者と連携し、適切に進行管理を行う必要があります。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | B | A |
| | | 28年度 | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|----------------------------------|--|
| ① | 平成27年4月1日現在の特別養護老人ホームの入所希望者は502人となっており、依然として高齢者施設整備に対する高いニーズがあります。 |
| ② | 町会連合会推薦者、民生委員、児童委員協議会推薦者等が、選定委員会の委員として、施設の整備・運営事業者の選定にあたりました。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|--|
| 時点 | 方向性 | 内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | ① 事業の展開内容 平成29年開設予定の教育センター跡地における特別養護老人ホーム及び文京福祉センター跡地における介護老人保健施設の整備を進めるとともに、公有地を活用した新たな特養の整備に向けた検討を行います。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 事業者選定に要する経費等の減 △909千円 施設整備補助金及び解体補助金の増 109,072千円 |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 事務0.5人 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【B様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|-------------|
| 事業番号 | 072 | 事業名 | 介護保険サービスの充実 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 介護保険課 | |
| 目的 | 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくことができるよう、介護及び介護予防サービスの充実を図り、各々の身体の状態に応じ自立した日常生活を営むことができるよう介護サービスを提供していきます。 | | |
| 手段 | 介護保険事業計画に基づき、被保険者の要介護状態又は要支援状態に関し、その状態の軽減又は悪化の防止に必要な保険給付を行います。保険給付は被保険者の心身の状況、その環境に応じた、被保険者の選択に基づき適切な介護サービスが事業者及び施設等から提供されます。介護保険事業の持続可能で安定的な運営を行ってまいります。 | | |

| 2 取組状況 | |
|--------|---|
| 25年度 | ①第1号、第2号被保険者のうち、要支援・要介護認定を受けた方に対し、介護（介護予防）サービスを提供しました。②要介護や要支援となるおそれのある高齢者及び元気高齢者に対し、生活機能の低下や重度化を防ぎ、自分らしい暮らしが継続できるよう介護予防事業（地域支援事業）を実施しました。③地域包括ケア体制の整備を図るため、4圏域すべてに高齢者あんしん相談センターの分室を設置しました。④介護サービスの質の向上を図るため、事業者連絡協議会及び各部会において研修や情報提供を行いました。⑤第6期介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、高齢者等実態調査を実施しました。 |
| 26年度 | ①第1号、第2号被保険者のうち、要支援・要介護認定を受けた方に対し、介護（介護予防）サービスを提供しました。②要介護や要支援となるおそれのある高齢者及び元気高齢者に対し、生活機能の低下や重度化を防ぎ、自分らしい暮らしが継続できるよう介護予防事業（地域支援事業）を実施しました。③地域包括ケア体制の充実のため、公有地を活用したショートステイ施設（定員24人）、認知症高齢者グループホーム（定員18人）を整備しました。④介護サービスの質の向上を図るため、事業者連絡協議会及び各部会において研修や制度改正及び計画策定等の情報提供を行いました。⑤第6期（27～29年度）介護保険事業計画を策定し区民、事業者の説明会や区報、リーフレット、ホームページ等で周知しました。 |
| 27年度 | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|------|------|----|------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | | | | | | |
| 特定財源 | | | | | | |
| 一般財源 | | | | | | |
| 所要人員 B | | | | | | |
| 職員1人給与 C | | | | | | |
| 人件費 D=B×C | | | | | | |
| 総経費 E=A+D | 0 | 0 | 0 | 0 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 利用者数の増加により、25年度の介護給付費は前年度に比べ約3.1%増加し、約121億4千万円となり高齢者を支える制度として定着しています。介護が必要になっても住み慣れた地域での生活を24時間体制で支える新たなサービスとして、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を指定しました。 | 【成果】 | 利用者数の増加により、26年度の介護給付費は前年度に比べ約4.1%増の126億5千万円となり、多くの高齢者の生活を支えています。26年度は住み慣れた地域での暮らしを継続するために、ショートステイ等の施設を開設しました。今後のニーズを勘案しサービスの充実を目指した第6期介護保険事業計画を策定しました。 |
| 【課題】 | 団塊の世代が75歳以上となる2,025年を見据えた中長期的な視点を持って、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供できる地域包括ケア体制の構築を目指して、第6期介護保険事業計画を策定していきます。また、介護保険制度の改正について周知が必要です。 | 【課題】 | 区では高齢化率が20%に達し、給付費も年々増加し続けています。27年度の制度改正では介護保険料の上昇を抑えるため、費用負担の公平化を図り、地域包括ケアシステムの構築によって地域支援事業を充実するよう求めています。これら制度改正の趣旨を踏まえ、第6期介護保険事業計画に沿って着実にサービスの充実と適正な制度運営を行っていく必要があります。 |
| 達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | A | A |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|----------------------------------|
| |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 現状維持 | 28年度に開始する介護予防・日常生活支援総合事業の実施に向けた検討、整備を行います。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | |
| | | ③ 所要人員の考え方 |
| 28年6月末 | | |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|----------------|
| 事業番号 | 073 | 事業名 | 地域密着型サービス施設の整備 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 介護保険課 | |
| 目的 | 要介護状態になっても住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域密着型サービス施設を整備します。 | | |
| 手段 | 介護保険法第8条第14項に規定する地域密着型サービス事業を行う施設の整備に係る費用の一部を補助することにより、整備を促進します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|------------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | か所 | 1 | — | | | — | | | — |
| 小規模多機能型居宅介護拠点 | か所 | — | — | | | 2 | | | — |
| 認知症高齢者グループホーム | か所 | — | 1 | 1 | 100% | 1 | | | — |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|---------|---------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 65 | 166,880 | 115,488 | 87,745 | | |
| 特定財源 | 0 | 145,312 | 101,124 | 77,196 | | |
| 一般財源 | 65 | 21,568 | 14,364 | 10,549 | | |
| 所要人員 B | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 総経費 E=A+D | 6,933 | 173,694 | 122,254 | 94,689 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|---|--|---|------|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所(連携型)を1か所指定しました。本富士圏域で認知症対応型通所介護事業所の定員を増やしました。 | | 【成果】 富坂圏域にグループホーム1箇所を開設しました。同圏域で大原地域活動センター跡地を活用した小規模多機能型居宅介護施設の事業者選定を行いました。 | | 【成果】 | |
| 【課題】 年度別施設整備計画に沿って、日常生活圏域を踏まえた施設整備を目指します。27年度以降の整備については、計画策定の中で検討していきます。 | | 【課題】 小規模多機能型について上記施設の開設に加え、本富士圏域で1箇所公募を行います。 ※高齢者・介護保険事業計画(27年度～29年度)では、27年度開設予定だった小規模多機能とグループホーム1箇所づつを、28年度開設予定に変更しています。 | | 【課題】 | |
| | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | B | A | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①ご家族の方より | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・区有地活用で居住費が抑えられることにより、経済的にも入所が継続しやすい。 ・小規模多機能型居宅介護で、急な時間の延長や、宿泊にも対応してもらえるため、家族は大変助かっている。 | |
| ②高齢者・介護保険事業計画の策定、地域密着型サービスの整備、指定については、公募区民を委員に加えた地域包括ケア推進委員会において、内容の検討承認を行っています。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|-----------------------------------|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | 高齢者・介護保険事業計画(27～29年度)に沿って整備を進めます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 |
| | | 整備予定により、減額になっています。 |
| | | ③ 所要人員の考え方 |
| | | 正規職員1人 |
| | | ④ 現状維持の理由 |
| 27年6月末 | 拡充 | |
| 28年6月末 | | |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|-----------|
| 事業番号 | 074 | 事業名 | ミドル・シニア講座 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | ミドル・シニア（概ね50歳以上の区民）の生きがいの向上及びこれまでの経験や知識を活かした社会参加を促進するため、様々なテーマの講演やワークショップ等を行う講座を開催します。 | | |
| 手段 | 区内の企業、NPO団体等と連携・協力しながら、講演やワークショップ等を行う講座を実施しています。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|-----------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| ミドル・シニア講座 | 回 | 5 | 5 | 5 | 100% | 5 | | | 5 |
| フォローアップ講座 | 回 | 1 | 1 | 1 | 100% | 1 | | | 1 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 436 | 779 | 836 | 791 | | |
| 特定財源 | 218 | 780 | 453 | 395 | | |
| 一般財源 | 218 | -1 | 383 | 396 | | |
| 所要人員 B | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 1,374 | 1,363 | 1,353 | 1,389 | | |
| 総経費 E=A+D | 1,810 | 2,142 | 2,189 | 2,180 | | |

| 4 評価 | | | | | | |
|---|--|--|--|------|------|------|
| 事業の成果及び課題 | | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | | |
| 【成果】 | | 【成果】 | | 【成果】 | | |
| ①平成24年度のみドル・シニア講座受講者を対象にフォローアップ講座を実施し、11名の参加がありました。②平成25年度のみドル・シニア講座を実施し、第1回「地域で役立つコミュニケーション」は20名、第2回「社会参加と健康」は17名、第3回「キャリア・デザイン」は16名、第4回「地域活動（シンポジウム）」は11名、第5回「マネープラン」は15名の参加がありました。 | | ①平成25年度のみドル・シニア講座受講者を対象にフォローアップ講座を実施し、6名の参加がありました。②平成26年度のみドル・シニア講座を実施し、第1回「地域活動とコミュニケーション」は7名、第2回「健康と社会参加」は5名、第3回「キャリアとライフプラン」は8名、第4回「地域での仲間のつくり方」は9名、第5回「地域のつながり」は6名の参加がありました。 | | | | |
| 【課題】 | | 【課題】 | | 【課題】 | | |
| ミドル・シニアの地域活動や社会参加に関する様々なニーズに対応するため、多様な団体と連携して事業を行うことが必要です。 | | 受講者数が減少傾向にあるため、講座内容等の見直しが必要です。 | | | | |
| 指標達成度 | | | | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | | | | A | A | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|--|
| ①平成26年度のみドル・シニア講座参加者から「講座（夜間）の実施時間（3時間）が長いので短くしてほしい。」という声がありました。 |
| ②区民、区内企業、NPO等の各種団体との協働により、講座を実施しました。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|---|
| 時点 | 方向性 | 内容 |
| 26年6月末 | 改善・見直し | ① 事業の展開内容 事業の内容や実施方法の見直しを行い、外部団体と連携しながら、ミドル・シニアの地域社会への参加を促進していきます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 基準単価の増により普通旅費、食糧費が増加し、必要経費の見直しにより印刷製本費が減少した結果、115千円の減となりました。 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ③ 所要人員の考え方 1人×0.2=0.2人と設定しました。 |
| | | ④ 現状維持の理由 |
| 28年6月末 | | |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|---------------|
| 事業番号 | 075 | 事業名 | 高齢者施設ボランティア講座 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 高齢者福祉に関心がある概ね50歳以上の区民に対し、社会参加と生きがいの増進を図るとともに、高齢者施設におけるボランティア需要の充足を図るため、ボランティア活動に必要な心得や基本的な介助技術等に関する講座を開催します。 | | |
| 手段 | 高齢者施設でのボランティア活動に必要な知識等を提供する講座を開催し、講座修了者にボランティア活動先をコーディネートすることで、ミドル・シニア（概ね50歳以上）の社会活動への参加意欲を喚起し、地域においてその能力が発揮されることを目的とします。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|-----------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 実践講座 | 回 | 2 | 1 | 1 | 100% | 1 | | | 1 |
| フォローアップ講座 | 回 | — | 1 | 1 | 100% | 1 | | | 1 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 228 | 644 | 227 | 234 | | |
| 特定財源 | 0 | 322 | 322 | 117 | | |
| 一般財源 | 228 | 322 | -95 | 117 | | |
| 所要人員 B | 0.25 | 0.16 | 0.16 | 0.16 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 1,717 | 1,090 | 1,083 | 1,111 | | |
| 総経費 E=A+D | 1,945 | 1,734 | 1,310 | 1,345 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 平成25年度は、前期は①6月29日 ②7月6日 ③7月13日、後期は①11月29日 ②12月5日 ③12月12日の各3日間で実施しました。受講者数は、前期は32人、後期は12人であり、そのうち区内高齢者施設への活動紹介者数は、前期は27人、後期は11人でした。受講者アンケートでは、9割近くの方から「充実していた」と回答があり、受講者のうち半数程度の方が受講後半年の間に紹介先でボランティア活動を開始しました。 | 【成果】 | 平成26年度は、①6月14日②6月21日③6月30日～7月4日のいずれか半日の全3回で実施しました。受講者数は17人、そのうち区内高齢者施設への活動紹介者は、12人でした。受講者アンケートでは、約7割の方から「充実していた」との回答があり、受講者のうち半数程度の方が受講後半年の間に紹介先でボランティア活動を開始しました。また平成25年度及び平成26年度に実施した講座に参加した受講生向けに、受講生同士の交流、受講生のボランティア活動の継続・発展を目的としてフォローアップ講座を実施し、受講者数は、11人でした。 |
| 【課題】 | ・3日目のボランティア体験の日時、内容について、受講者及び受入施設の負担にならないよう配慮が必要です。 ・講座は土曜日に開催しましたが、ボランティア受入先のニーズは平日が高く、ミスマッチが起きています。 ・受講生の講座修了後のボランティア活動を支援するため、平成25年度受講者を対象にフォローアップ講座の実施が必要です。 | 【課題】 | ・受講者の講座修了後のボランティア活動を支援するため、平成25年度及び平成26年度の受講者を対象に引き続きフォローアップ講座の実施が必要です。 ・受講者数が伸び悩んでおり、とくにミドルシニア（50～59歳）の参加者数が少ない状況にあります。周知方法の工夫、講座内容や実施時期の見直しが必要です。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | B | A |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①アンケートより以下のような意見が挙げられました。「（ボランティアの）参加の仕方について考えさせられた。」「認知症サポーター養成講座を受けてオレンジリングをもらったが、バッグにつけて自覚を促し、啓蒙活動になればと思う。」「できることからということで、明るい気持ちで皆様と接していきたい。」「ボランティアは初めてなので何人かで実習に行った方が心強い。」 | |
| ②区内高齢者施設及びボランティア団体との協働により実施しました。 | |

| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
|--------|--------|---|
| 26年6月末 | 改善・見直し | 26年度、27年度ともに1期実施し、フォローアップ講座も含め関係団体及び施設と綿密な連絡調整を行うことにより、効果的な事業展開を行います。 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ② 当初予算の増減内訳 全体で410千円減となっています。謝礼等報償費・一般需用費・印刷費・参考図書購入費が減額となっています。 |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 事業実施及び関係機関との調整等により所要人員を0.16人と計上しました。 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|---------------|
| 事業番号 | 076 | 事業名 | ふれあいいきいきサロン事業 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（子育て支援計画、高齢者・介護保険事業計画、障害者計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課 | |
| 目的 | 外出の機会が少なくなりがちな高齢者や障害者、子育て中の親子が、いろいろな活動の中で、楽しみながら仲間づくりをしていきます。地域で孤立しがちな人たちが住み慣れた地域の中で支え合い、安心して暮らしていけることを目的とします。 | | |
| 手段 | 社会福祉協議会に助成して、多様な活動と幅広い年齢層のサロンが各地区にバランス良く開設され、多くの区民が気軽にサロンに参加できるよう、サロンの開設を計画している人に開設から自立までの支援を行います。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| サロン設置箇所 | か所 | 90 | 90 | 98 | 109% | 91 | | | 92 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 839 | 1,518 | 1,319 | 1,900 | | |
| 特定財源 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 839 | 1,518 | 1,319 | 1,900 | | |
| 所要人員 B | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.10 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 343 | 341 | 338 | 694 | | |
| 総経費 E=A+D | 1,182 | 1,859 | 1,657 | 2,594 | | |

| 4 評価 | | | | |
|---|--|-------------|------|------|
| 事業の成果及び課題 | | | | |
| 26年度 | 27年度 | 28年度 | | |
| 【成果】 ・1年間で新規に14か所の登録があり、地域の支え合いが進んでいます。 ・地域福祉コーディネーターが配置された地区では、サロンの開設や運営に関してより身近に支援することができています。 ・サロンのパンフレットにおいて課題解決の役割をPRし、理解を進めました。 ・代表者交流会を開催し、ネットワーク化を進めました。 | 【成果】 新たな地区（圏域）への地域福祉コーディネーター配置により、これまで以上に地域のニーズやそれに向き合おうとする支え合いの力をいち早くつかむことができ、サロンの開設支援を円滑に行うことができました。 区民や関係機関への働きかけと協働により、居場所づくりの活動に対し、地域全体で取り組む姿勢が示されていました。 | 【成果】 | | |
| 【課題】 ・常設型でいつでも寄れるサロン開設が求められています。駒込地区では、町会連合会が主体の常設型の居場所づくりの支援を地域福祉コーディネーターが行いました。今後、各サロンとの連携や運営のあり方等について、多様な方面から検討する必要があります。 | 【課題】 区民会館や会議室など、サロンを開催する場所を確保することが年々難しくなっており、開設や継続の難しさにつながっています。 | 【課題】 | | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | | A | A | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|--|
| ①「定期的に開催できる場所の確保が難しくなっている」との声がここ数年開催者等からあがっています。 |
| ②サロンは区民等により自主的に行われています。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|---|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | ①地域の多様な団体などに開設の呼びかけや支援を行っていきます。 ②広報の支援を行うとともに、情報の提供や共有の場として代表者交流会等を行います。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 社会福祉協議会補助の増 382千円 (主な増減 ①サロン運営助成金の増 292千円 ②サロン保険の増 87千円) |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 社会福祉協議会への補助金交付業務を行うとともに、事業内容の検討等にも関わっています。区職員1人×0.1 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|-----------------|
| 事業番号 | 077 | 事業名 | 介護予防が推進される地域づくり |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | | 福祉・健康 | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画、保健医療計画） | | |
| 所管 | 保健衛生部 | 健康推進課 | |
| 目的 | 地域住民の主体的な活動等により、介護予防に向けた取組みが自主的に実施される地域社会の構築を目指して、介護予防事業を実施していきます。 | | |
| 手段 | 高齢者が身近な所で運動継続できる場として、文の京介護予防体操地域会場を展開し、地域住民による介護予防推進のため、介護予防ボランティアの養成を計画的に実施します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|----------------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 教室会場数 | か所 | 12 | - | | | - | | | - |
| 自主グループ数 | 団体 | 15 | - | | | - | | | - |
| 自主グループサポーター数 | 人 | 11 | - | | | - | | | - |
| 地域会場 | 回 | 326 | - | | | - | | | - |
| 文の京介護予防体操教室 | 人 | 26 | - | | | - | | | - |
| 推進リーダー養成講習 | 人 | 15 | - | | | - | | | - |
| 推進リーダースキルアップ講習会 | 人 | 54 | - | | | - | | | - |
| 地域会場 | か所 | - | 9 | 10 | 111% | 10 | | | 11 |
| 介護予防体操推進リーダー養成 | 人 | - | 20 | 15 | 75% | 20 | | | 20 |
| 介護予防体操推進リーダー登録者 | 人 | - | 90 | 74 | 82% | 100 | | | 110 |
| 転倒骨折予防体操ボランティア指導員養成 | 人 | - | 5 | 18 | 360% | 5 | | | 5 |
| 転倒骨折予防体操ボランティア指導員登録者 | 人 | - | 17 | 14 | 82% | 22 | | | 27 |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 876 | 1,014 | 802 | 1,188 | | |
| 特定財源 | 876 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 0 | 1,014 | 802 | 1,188 | | |
| 所要人員 B | 0.60 | 0.60 | 0.60 | 0.60 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 4,121 | 4,088 | 4,060 | 4,166 | | |
| 総経費 E=A+D | 4,997 | 5,102 | 4,862 | 5,354 | | |

| 4 評価 | | | |
|---|---|------|-------------|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | 27年度 | | 28年度 |
| 【成果】 介護予防体操地域会場は、平成26年度当初に1会場増設し、参加者も回を重ねる度、増加傾向にあります。会場の定員を超える参加者が継続的にある場合は二部制により対応しています。文の京介護予防体操は、予約や事前登録なしで参加できる介護予防事業であり、運動を継続する場としても有効です。転倒骨折予防体操ボランティア指導員養成人数は、平成27年度も22人と高い傾向が続いています。 | 【成果】 平成26年度未現在、文の京介護予防体操地域会場は10会場となりました。参加者は引き続き増加傾向にあります。会場の定員を超える参加者が継続的にある場合は二部制により対応しています。文の京介護予防体操は、予約や事前登録なしで参加できる介護予防事業であり、運動を継続する場としても有効です。転倒骨折予防体操ボランティア指導員養成人数は、平成27年度も22人と高い傾向が続いています。 | | 【成果】 |
| 【課題】 今後、身近な所で運動継続する場を増やすために、区有施設や大学施設等を地域会場として展開していきます。そのためには適切な推進リーダーの配置が必要となります。安定的に地域会場を運営していくために、区内高齢者団体等にも働きかけ、元気な高齢者が支える介護予防として推進リーダー登録者の増加に努めます。 | 【課題】 文の京介護予防体操については、区有施設での開催のため、新たな会場を探すことが困難ですが、他課業務との連携等により地域会場の増加に努めます。また、体操参加者の増加に伴い二部制の会場も増えてきており、地域会場を安定的に運営していくため、引き続き推進リーダーの計画的養成に努めます。転倒骨折予防教室では、ボランティア養成人数増加に伴う体制を検討していく必要があります。 | | 【課題】 |
| 指標達成度 | | | |
| | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | B | B | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|----------------------------------|
| |

| 6 今後の方向性 | | ① 事業の展開内容 |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | |
| 26年6月末 | 改善・見直し | 文の京介護予防体操地域会場の増加と推進リーダーの計画的な養成を図ります。 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ② 当初予算の増減内訳 報償費 △42千円 一般需用費 2千円 役務費(保険料) 6千円 |
| | | ③ 所要人員の考え方 2人×30%=0.6人 |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|--------|
| 事業番号 | 078 | 事業名 | シニアプラザ |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 文京区及び区内大学（跡見学園女子大学）が協働して、高齢者の健康の増進及び生きがいの向上等に資する事業を実施することによって、高齢者の地域における豊かな生活を支援します。 | | |
| 手段 | 高齢者クラブ等の地域団体の協力を得て、各々の特色を生かした活動を取り入れた事業を実施します。また、学生が参画・参加する機会を積極的に設けて、世代間交流を促進させ、本事業を一層促進させます。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 実施事業数 | 回 | 0 | 10 | 10 | 100% | 15 | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|------|-------|--------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | | 1,555 | 854 | 799 | | |
| 特定財源 | | 827 | 1,470 | 799 | | |
| 一般財源 | | 728 | -616 | 0 | | |
| 所要人員 B | | 0.80 | 1.60 | 0.80 | | |
| 職員1人給与 C | | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | | 5,451 | 10,826 | 5,555 | | |
| 総経費 E=A+D | | 7,006 | 11,680 | 6,354 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|--|---|------|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | | 【成果】 事業全体で延べ参加者1,154名（高齢者901名、学生253名）を集め、高齢者の活動の機会を増やし健康づくりにも寄与しました。本事業をきっかけに、以下のような、高齢者と学生の交流が進みました。 ・同大学生が文京区高齢者クラブ連合会事業にボランティアとして参加しました。 ・Bーぐる沿線協議会と同大学生が協働して製作している車内放映用地域紹介映像の撮影に、高齢者クラブ連合会が協力し、高齢者クラブの活動紹介DVDを作成しました。 ・高齢者クラブの呼びかけで、同大学生がクラブの活動（お茶・輪投げ等）に参加しました。 | 【成果】 |
| 【課題】 | | 【課題】 ・各イベントについて参加者の感想は良好なものが多くありました。関係者で行った反省会等での意見をH27実施に反映させ、イベントの更なるブラッシュアップを行っていきます。 ・実施初年度だったこともあり、協力いただいた高齢者クラブの負担感が大きくなりました。また、所要人員の見積もりも大きく超えています。運用方法の見直しを行うとともに、区の介在が少なくても、世代間交流を続けられるよう、今後の継続に向けた検討が必要です。 | 【課題】 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | | A |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|----------------------------------|---|
| ① | 「楽しかった。元気になる。」（区民）「今後、自分のクラブの活動でも学生との交流をしたい。」「例年行っている行事に加えて、イベントが急増したため大変だった。」（文高連役員） |
| ② | 高齢者クラブをはじめとする多くの区内高齢者が本事業で展開した様々なイベントに参加した。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | 内容 |
| 26年6月末 | 現状維持 | ① 事業の展開内容 概ね昨年度のイベントを継続しつつ、将来的には担当課の介在が少なくても当事者同士で持続可能な事業となるよう、各イベントの運営方法や活動場所の整理工夫を行います。 ② 当初予算の増減内訳 事業費は昨年度実績を元に適性規模に修正しています。 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ③ 所要人員の考え方 H26は実施初年度だったこともあり、見積もりを大きく超えました。H27年度は事業の運営方法を見直し、適性な人員コストで運営できるよう整理工夫を行います。 |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|-------------------|
| 事業番号 | 079 | 事業名 | 文京区高齢者緊急連絡カード設置事業 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【小項目】 |
| | 福祉・健康 | | 地域の見守り |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 65歳以上のひとり暮らし、または80歳以上の高齢者のみの世帯の方が自宅内での緊急事態に適切に対処するため、住所・氏名・緊急連絡先・かかりつけ医等を記載したカードを作成し、対象の高齢者宅に設置します。カードの情報は、区と民生・児童委員、話し合い員、高齢者あんしん相談センターが共有し、緊急時に備えます。 | | |
| 手段 | 民生・児童委員が区からの委託に基づき申請者宅を訪問し、緊急連絡カードを設置します。ただし、65～69歳に対しては、利用を促進するため郵送で申請書を送付しています。調査は、①4年に一度行う全件調査（今回はひとり暮らし高齢者を対象に27年度に実施）、②新たに65歳のひとり暮らしと80歳以上の高齢者のみ世帯の方、転入者を対象とした補充調査を実施しています。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 全件調査時設置率（ひとり暮らし） | % | — | — | | | 35 | | | — |
| 補充調査時設置率（ひとり暮らし） | % | 19 | 20 | 20 | 100% | — | | | 22 |
| 全件調査時設置率（80歳以上のみ世帯） | % | 36 | — | | | — | | | — |
| 補充調査時設置率（80歳以上のみ世帯） | % | — | 20 | 46 | 230% | 21 | | | 22 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 680 | 634 | 508 | 3,484 | | |
| 特定財源 | 349 | 317 | 316 | 1,738 | | |
| 一般財源 | 331 | 317 | 192 | 1,746 | | |
| 所要人員 B | 0.75 | 0.75 | 0.75 | 1.50 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 5,151 | 5,111 | 5,075 | 10,416 | | |
| 総経費 E=A+D | 5,831 | 5,745 | 5,583 | 13,900 | | |

| 4 評価 | | | |
|---|--|-------------|------|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| 【成果】 25年度は補充調査を行い、286件のカードを設置しました。また新たに80歳以上の高齢者のみの世帯（2304件）の調査を行い、837件のカードを設置しました。対象を広げたことで、より高齢者の安否確認や緊急対応、その後のケアなどに役立てることができました。 | 【成果】 26年度のひとり暮らし高齢者の補充調査（1,531件）では、307件のカードを設置しました。また、80歳以上の高齢者のみ世帯（476件）からは、217件の申請があり計画より大幅にアップし、高齢者の地域での孤立を防ぎ、安否確認やその後のケアなどに役立てることができました。 | 【成果】 | |
| 【課題】 各家庭の事情により、カードを置く場所が違ってきます。カードがすぐに見つかる方法や置き場所等を検討する必要があります。 | 【課題】 すぐにカードが見つかる効果的な方法は、区の内部検討だけではなく、訪問調査を実際に行っている民生委員の意見等も取り入れる必要があります。今年度の全件調査に合わせ、民生委員と具体的な検討を進めていく必要があります。 | 【課題】 | |
| 指標達成度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | B | A | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|---|
| ①「近くに親族がいるので大丈夫です。」とカード設置を辞退される方はいますが、カード作成後、緊急連絡先やかかりつけ医の追加連絡も多く、カードを最大限活用されている区民も多くいます。 |
| ②状況調査は民生・児童委員に委託しています。カードの保管は区・高齢者あんしん相談センターのほか、民生・児童委員と話し合い員も行い、緊急時に備えています。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 改善・見直し | 調査方法等を見直し、民生委員等とともに検討し、更に改善を重ね、より合理的な運用を目指します。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 今年度の予算額は、前年度比+2,850千円。4年に1度のひとり暮らし高齢者の全件調査年で一般委託費及び封筒印刷・郵便料、臨時職員の雇用等による増。 |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 全件調査年：1.5 補充調査年：0.75 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|------------------|
| 事業番号 | 080 | 事業名 | ハートフルネットワーク事業の充実 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【小項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 高齢者が住み慣れた地域で安心した生活をいつまでも続けられるよう、地域の協力機関と連携し、各々の事業の範囲内で見守り支援等を行います。 | | |
| 手段 | 民間協力機関、団体協力機関、公共協力機関、高齢者あんしん相談センター及び区がネットワークを構築し、相互に連携しながら高齢者の見守り等を行います。適宜ネットワーク連絡会を開催し、協力機関の情報交換や連携調整を行います。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|------------------|----|------|------|-----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| ハートフルネットワーク協力機関数 | 件 | 572 | 575 | 608 | 106% | 580 | | | 590 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 1,435 | 77 | 283 | 277 | | |
| 特定財源 | 1,152 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 283 | 77 | 283 | 277 | | |
| 所要人員 B | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 1,374 | 1,363 | 1,353 | 1,389 | | |
| 総経費 E=A+D | 2,809 | 1,440 | 1,636 | 1,666 | | |

| 4 評価 | | | | |
|---|--|-------------|------|------|
| 事業の成果及び課題 | | | | |
| 26年度 | 27年度 | 28年度 | | |
| 【成果】 平成25年度は、組合単位での登録があったため、登録件数は総数で572件となりました。また、文京区4生活圏域の高齢者あんしん相談センターが主催で、それぞれ年2回のネットワーク連絡会（安心ネット連絡会）を行いました。 | 【成果】 平成26年度は、金融機関、配食サービス等の登録があり、登録件数は総数で608件となりました。また、引き続き区内4生活圏域の高齢者あんしん相談センターが年2回ずつ、ハートフルネットワーク関係機関のネットワーク連絡会（安心ネット連絡会）を主催し、熱中症予防や認知症等の、地域で抱えている高齢者に関する課題の共有や取り組みについて話し合いを実施しました。さらに、26年度は2つの高齢者あんしん相談センターが共催で、本郷地区の協力機関を中心とした地域交流会を開催し、相互連携の輪を強化する機会となりました。 | 【成果】 | | |
| 【課題】 登録件数は順調に上昇し、ネットワークの幅は広がっていますが、高齢者のより安心した生活が可能になるよう、相互連携の輪をより強化するとともに日常生活状況に則した支援になるよう工夫することが必要になってきました。 | 【課題】 引き続き、本事業に賛同し登録いただける協力機関の拡大に努めます。また、個々の協力機関の見守りの意識や取り組みが継続し、地域で根付いていくために、民間協力機関とも有機的な連携を強化していく必要があります。 | 【課題】 | | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | | A | A | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|----------------------------------|
| ①地域の協力機関と顔の見える関係をつくり、つながっていききたい。 |
| ②地域の団体や組合、商店街などがネットワークに参加しています。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|------|---|
| 時点 | 方向性 | 内容 |
| 26年6月末 | 現状維持 | ① 事業の展開内容 安心ネット連絡会などを通して、協力機関相互の情報交換や連絡調整、啓発活動を行います。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 送付用封筒代などの事務費の減 △17千円 |
| 27年6月末 | 現状維持 | ③ 所要人員の考え方 1人×0.2=0.2人 |
| | | ④ 現状維持の理由 引き続きネットワーク協力機関の幅を広げ、高齢になっても安心した生活を続けられるよう、協力機関相互の連携の強化を図っていきます。 |
| 28年6月末 | | |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|----------|
| 事業番号 | 081 | 事業名 | みまもり訪問事業 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課 | |
| 目的 | 一人暮らし等の高齢者を見守り、高齢者が地域から孤立することを防止するとともに、高齢者の心身、生活状況等の異変を早期に発見し、必要な支援につなげることを目的とします。 | | |
| 手段 | 社会福祉協議会に助成して、登録している地域のボランティア『みまもりサポーター』が月に2回程度、高齢者の自宅へ訪問し声掛けする事業を実施します。みまもりサポーターは異変等を感じた場合、社会福祉協議会へ報告し、必要に応じて関係機関へ連絡し支援につなげます。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 利用者 | 人 | 78 | 80 | 86 | 108% | 90 | | | 100 |
| サポーター | 人 | 45 | 50 | 51 | 102% | 55 | | | 60 |
| 連絡会 | 回 | 34 | 32 | 32 | 100% | 32 | | | 32 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 400 | 1,000 | 569 | 1,000 | | |
| 特定財源 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 400 | 1,000 | 569 | 1,000 | | |
| 所要人員 B | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.10 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 343 | 341 | 338 | 694 | | |
| 総経費 E=A+D | 743 | 1,341 | 907 | 1,694 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|--|--|---|------|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 サポーターが定期的に訪問していることで、ちょっとした変化に気づくことができ、早期に必要な支援へつなぐことができています。また、支援の際には、サポーターからの情報により、本人の不安や要望に寄り添った形で支援につながっています。 | | 【成果】 みまもり訪問により個々の利用者の状況を把握し、必要な支援やサービスにつなげることができました。毎月実施している連絡会において、サポーター同士の情報交換を行い課題等を検討し、技術の向上につなげることができました。また、利用者との関係の中で、それぞれの状況に応じたみまもり支援のスタイルが築かれ、実践されてきています。 | | 【成果】 | |
| 【課題】 この事業は、本人が自ら事業の存在を知り利用を決めるというよりは、親族やサポートをしている人からの勧めで事業を利用するケースが多いです。したがって、この事業を本当に必要としている人に利用機会が与えられるよう、広報や周知の仕方を工夫していくことが課題です。 | | 【課題】 利用者の状況が変化しており、介護保険サービスなどしかるべき支援へのつながりが必要な場合に、スムーズな連携・協働ができる体制をこれまで以上に強化することが大切です。 | | 【課題】 | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | | A | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①みまもり訪問以外にも家事援助などの希望が寄せられることがよくあります。対象者自身からではなく、周囲の区民や関係者などの方が心配して、対象者へ利用を促してはどうかとの声がか寄せられることがあります。 | |
| ②地域のボランティア等が中心になり、活動を進めています。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|---|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | ①対象者等へのみまもり訪問事業の周知 ②関係機関等との連携強化 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 社会福祉協議会補助 増減なし |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 社会福祉協議会への補助金交付業務を行うとともに、事業内容の検討等にも関わっています。区職員1人×0.1 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|------------------------------|
| 事業番号 | 082 | 事業名 | 地域福祉コーディネーターの配置による小地域福祉活動の推進 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（地域福祉保健の推進計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課 | |
| 目的 | 住み慣れた身近な地域で高齢者や障害者、子育て世代をはじめ、住民みんなが助け合い安心して暮らせるためには地域住民が主体となって地域の課題に取り組み、自ら解決していく共助の活動が不可欠となっています。この事業は一定の地域の範囲を設定し、地域特性や実情に応じた地域課題や制度の狭間にある問題の解決に向けたしくみづくりを住民と協働で行うことを目的とします。 | | |
| 手段 | 社会福祉協議会に助成して、社協の地域福祉活動計画に基づき、モデル地区において社会福祉士等の地域コーディネーターを配置し、小地域福祉活動事業を実施するものです。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|-------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 小地域福祉活動実施地区 | 地区 | 1 | 2 | 2 | 100% | 3 | | | 4 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|--------|--------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 7,244 | 14,830 | 12,823 | 25,224 | | |
| 特定財源 | 3,596 | 7,415 | 8,849 | 12,612 | | |
| 一般財源 | 3,648 | 7,415 | 3,974 | 12,612 | | |
| 所要人員 B | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.10 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 343 | 341 | 338 | 694 | | |
| 総経費 E=A+D | 7,587 | 15,171 | 13,161 | 25,918 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|-----------|---|------|------|---|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 | <p>①地域で課題を抱える高齢者を地域住民や関係機関等が連携して支援したことにより、これまで個々の生活課題とされてきたものを、地域の課題として捉えるようになり、地域の福祉勉強会へと発展しました。</p> <p>②自治会において住民懇談会を毎月開催することにより、これまで関わりの希薄であった住民の課題を共有できるようになり、日常的な見守り活動に発展しました。</p> <p>③地域が活性化され、町会連合会が主催で地域の空き家を活用したコミュニティサロンの立ち上げにもつながりました。</p> | | 【成果】 | <p>町会主催の居場所づくり、福祉施設を利用した居場所づくり、精神障害をテーマにした居場所づくり、子どもを対象にした居場所づくりなど、地域の課題に合わせた取り組みを区民との協働で進めることができました。立ち上げ支援から関わり、地域の活動拠点となった「こまじいのうち」などの活動を通じて、小地域福祉活動に対して理解と認知が進み、今後の活動への期待が強まっています。</p> | |
| 【課題】 | <p>①制度の狭間にある課題や地域の取組みについては、すぐに成果がでない場合もあり、長期的な関わりが必要です。</p> <p>②取り組んでいる課題については課題が複雑なものがあり、支援する労力や時間がかかるものが多く、地域福祉コーディネーターだけではなく、社協組織全体で取り組んでいく必要があります。</p> <p>③課題への取組みの要望がある一方で、社協は個人情報把握できず、支援しにくいという課題があります。</p> | | 【課題】 | <p>区内全地区（圏域）への地域福祉コーディネーターの配置が望まれています。個別支援・地域支援とも複雑なケースや時間のかかるケースが多く、取り組みに困難性を持つものもあります。区民との協働や関係機関との連携の強化が課題です。</p> | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | | A | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|--|--|
| ①居場所づくりの実践から「自らの地域でも地域福祉活動を実践してほしい」との要望が、民生委員をはじめとした、地域住民からあります。 | |
| ②地域づくりは、地域の方々による地域のための活動であるため、区民の方々を中心となって進められています。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | 平成27年度中に残りの2地区に地域福祉コーディネーターを配置する予定です。これにより区内全ての圏域（4地区）で地域福祉コーディネーターが活動することになります。 |
| 27年6月末 | 拡充 | <p>② 当初予算の増減内訳</p> <p>社会福祉協議会補助の増 10,394千円 （主な増減 ①コーディネーター人件費の増 10,701千円 ②懇談会等会場費の増 291千円）</p> |
| 28年6月末 | | <p>③ 所要人員の考え方</p> <p>社会福祉協議会への補助金交付業務を行うとともに、事業内容の検討等にも関わっています。区職員1人×0.1</p> <p>④ 現状維持の理由</p> |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|----------|
| 事業番号 | 083 | 事業名 | 院内介助サービス |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保険計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 介護保険課 | |
| 目的 | 医療機関受診時に付添いが必要な一定の要件を満たす高齢者に対し、受診時の待ち時間における付添い等のサービスを提供することにより、一人では通院困難な高齢者の通院の機会を確保します。 | | |
| 手段 | 介護保険で要支援2以上の認定を受けている65歳以上同居等高齢者が、介護保険の通院介助を利用して医療機関を受診する際、院内での付添い等のサービスを提供します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------------|----|------|------|-----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 利用登録者 | 人 | 234 | 269 | 269 | 100% | 289 | | | 311 |
| 事業者への啓発、連携の強化 | か所 | 45 | 45 | 52 | 116% | 45 | | | 45 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 4,645 | 5,982 | 4,868 | 5,790 | | |
| 特定財源 | 1,807 | 1,888 | 1,890 | 1,452 | | |
| 一般財源 | 2,838 | 4,094 | 2,978 | 4,338 | | |
| 所要人員 B | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 3,434 | 3,407 | 3,383 | 3,472 | | |
| 総経費 E=A+D | 8,079 | 9,389 | 8,251 | 9,262 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|--|---|-------------|------|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 介護保険での通院介助に引き続き、医療機関の院内における付添いや誘導等の介助を、延べ985人に対し1,955時間の院内介助を提供しました。前年度比で人数が109%、利用時間が100%と増加しています。 | 【成果】 介護保険での通院介助に引き続き、医療機関の院内における付添いや誘導等の介助を、延べ1,007人に対し2,046時間の院内介助を提供しました。前年度比で人数が102%、利用時間が105%と増加しています。また、登録事業者数についても前年度比116%と増加しており、制度の周知が進んでいるものと考えます。 | 【成果】 | | | |
| 【課題】 介護給付の対象となる院内での身体介護と、院内介助サービスの対象となる付添いとの違いについて、理解が不十分なケアマネジャーが一部に見られるので周知を行っていきます。 | 【課題】 介護保険要介護認定の更新時には、院内介助サービスの更新も行う必要があるが、一部更新がされないケースがあったので制度の運用方法について周知に努めます。 | 【課題】 | | | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | B | A | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|---|
| ①「家族が遠方に居住しており、通院に付き添えないので利用しています。」（利用者家族） 「家族が疾病のため付き添えないので活用しています。」（ケアマネジャー） |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|------|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 現状維持 | 新規の事業者が増加しているため、適正な利用の周知に努めます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 扶助費を精査したため減額となっています。 |
| 27年6月末 | 現状維持 | ③ 所要人員の考え方 職員 (0.5) |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 必要な通院の機会を確保していくことは、利用者の状態の維持・改善を図るうえで有効です。 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------|----------------|
| 事業番号 | 084 | 事業名 | 介護人材確保・定着等支援事業 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 介護保険課 | |
| 目的 | 介護サービス事業者と関係機関のネットワークづくりを進め、連携して人材確保、養成、定着の促進に向けた施策を検討し、実施します。 | | |
| 手段 | 区、区内介護サービス事業所、区内福祉士養成校による意見交換会を開催し、地域特性や課題等を踏まえて、検討します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|------------------|----|------|-------|-------|-----|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 介護事業所周知パンフレットの作成 | 部 | | 1,500 | 1,000 | 67% | 0 | | | 0 |
| 研修会等の実施 | 回 | | — | | | 12 | | | 12 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | | 3 | 2 | 3 | | |
| 特定財源 | | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | | 3 | 2 | 3 | | |
| 所要人員 B | | 0.50 | 0.50 | 0.50 | | |
| 職員1人給与 C | | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | | 3,407 | 3,383 | 3,472 | | |
| 総経費 E=A+D | | 3,410 | 3,385 | 3,475 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|-----------|--|------|---|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 | | 【成果】 | 11月11日の「介護の日」にちなみ、区民等に介護をより身近に感じていただく契機として、11月から12月にかけて介護事業所等で実施するイベントや施設見学会等について、区で取りまとめたパンフレットを作成し、高齢者あんしん相談センター等に配布しました。 | 【成果】 | |
| 【課題】 | | 【課題】 | 介護の啓発事業に加えて、今後、人材確保・定着等の事業に関して、区内介護サービス事業者及び介護福祉士養成校と協力し、区の実情に合った実効ある支援内容を検討する必要があります。 | 【課題】 | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | | C | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|---|
| ①介護人材は大きな課題である。人材確保について区は支援する必要があるのではないか。（第6期高齢者・介護保険事業計画 パブリックコメント） 人材確保、育成、定着への取り組みとして、現に介護現場で働く者に対する「当面」と、学生等の次世代を担う者に対する「将来」とに分けて推進していくことが重要である。（介護人材の確保・育成等に関する意見交換会） |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | 介護人材の確保、定着等の支援に向けた事業検討、実施の準備を行います。また、事業実施について、地方創生先行型交付金の活用を検討します。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 新規事業を検討する中で、平成27年度内に試行可能なものは実施していきます。 |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 正規職員0.5人 |
| | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|--|-------------|-------------|
| 事業番号 | 085 | 事業名 | 高齢者の権利擁護の推進 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課・高齢福祉課 | |
| 目的 | 虐待を受けた高齢者を保護し、必要な措置を実施するとともに、高齢者の権利擁護のための広報・啓発活動を進め、虐待防止や早期発見を図ります。また、身寄りがない認知症高齢者に対する成年後見制度の区長申立てを活用し、高齢者の権利擁護を推進します。 | | |
| 手段 | 虐待を受けた高齢者の養護措置、虐待防止の啓発、成年後見制度の区長申立ての活用等により、高齢者の権利擁護を推進します。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|--------------|----|------|-------|-------|------|-------|----|-----|-------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 成年後見区長申立て | 件 | 10 | — | 2 | — | — | | | — |
| パンフレット等の配付部数 | 部 | — | 3,000 | 3,000 | 100% | 3,000 | | | 3,000 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 1,386 | 2,486 | 1,776 | 5,085 | | |
| 特定財源 | 1,234 | 752 | 2,084 | 4,257 | | |
| 一般財源 | 152 | 1,734 | -308 | 828 | | |
| 所要人員 B | 0.80 | 0.80 | 0.80 | 0.80 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 5,494 | 5,451 | 5,413 | 5,555 | | |
| 総経費 E=A+D | 6,880 | 7,937 | 7,189 | 10,640 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|--|------|---|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 内容を刷新した「みんなで防ごう！高齢者虐待」と題した虐待予防啓発パンフレットを作成し、関係機関への配布とともに権利擁護の啓発に努めました。平成25年度の区長による成年後見申立件数は10件でした。そのうち半数は文京区社会福祉協議会による法人後見となり、近年法人後見の実績が増えています。 | 【成果】 | 前年度作成した虐待予防啓発パンフレットの内容及び問合せ先を見直し、関係機関に配布、窓口への設置等により、関係機関や区民等に向けた権利擁護の啓発を図りました。平成26年度の高齢者に係る区長による成年後見申立て件数は2件でした。 |
| 【課題】 | 高齢者虐待の早期発見・早期対応は進んでいますが、いわゆる困難事例の増加傾向がみられます。文京区社会福祉協議会による法人後見は実績を増やしていますが、今後、利用者のニーズに応じた基盤整備を進めていく必要があります。また、権利擁護の重要性や成年後見制度等の周知・啓発活動をよりきめ細かく進めていく必要があります。 | 【課題】 | 権利擁護の啓発活動の成果もあり、関係機関等による高齢者虐待の早期発見・早期対応は進んでいます。今後も、解決が困難な事例への対応のためにも、関係機関との連携が不可欠です。また、成年後見制度の利用を必要とする人が経済的な理由で申立てをあきらめることのないように、報酬助成制度の対象を拡大することについて今後検討します。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | A | A |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①成年後見人に対する報酬助成制度を区長申立ての場合に限定せず、親族や本人申立ての場合も助成対象とするようとの請願がありました。 | |
| ②虐待の恐れに関するケースについて、区民や民生委員などから情報提供をいただくことがあります。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 改善・見直し | 作成したパンフレットを高齢者相談に係る関係機関や区民等の窓口となる所管に配布し、虐待防止に向けた啓発に取り組んでいます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 |
| | | ①緊急一時保護委託料の減 △555千円 ②親族申立分の報酬拡充による扶助費の増 1,494千円 |
| | | ③ 所要人員の考え方 |
| | | 4人×0.2=0.8人 |
| | | ④ 現状維持の理由 |
| 27年6月末 | 拡充 | |
| 28年6月末 | | |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|---------------|
| 事業番号 | 086 | 事業名 | 権利擁護センター事業の充実 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画、障害者計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 福祉政策課 | |
| 目的 | 高齢者、障害者等の権利を擁護し、誰もが安心して地域社会での生活が続けられるように、各種の支援を行い、地域福祉の向上に努めます。 | | |
| 手段 | 社会福祉協議会に助成して、あんしんサポート文京において、福祉サービス利用援助事業及び財産安全管理サービスの実施、福祉サービスに関する苦情等の受付、成年後見制度の相談受付・利用支援、法人後見、申立経費の助成、法律相談、成年後見相談の実施などを行っています。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|-----------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 法人後見受任 | 件 | 11 | — | 11 | — | — | — | — | — |
| 申立助成 | 件 | 1 | — | 1 | — | — | — | — | — |
| 成年後見制度推進機関運営委員会 | 回 | 2 | 3 | 2 | 67% | 3 | — | — | 3 |
| 成年後見学習会/講座 | 回 | 8 | 8 | 8 | 100% | 8 | — | — | 8 |
| 専門相談 | 回 | 23 | — | 29 | — | — | — | — | — |
| 社会貢献型後見人候補者の養成 | 人 | 9 | 11 | 10 | 91% | 13 | — | — | 15 |
| 福祉サービス利用援助事業 | 件 | 30 | — | 43 | — | — | — | — | — |
| 財産安全管理サービス | 件 | 29 | — | 29 | — | — | — | — | — |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 2,161 | 3,314 | 2,531 | 3,657 | — | — |
| 特定財源 | 1,081 | 1,657 | 1,381 | 1,701 | — | — |
| 一般財源 | 1,080 | 1,657 | 1,150 | 1,956 | — | — |
| 所要人員 B | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | — | — |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | — | — |
| 人件費 D=B×C | 343 | 341 | 338 | 347 | — | — |
| 総経費 E=A+D | 2,504 | 3,655 | 2,869 | 4,004 | — | — |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|---|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | <ul style="list-style-type: none"> ・25年度の相談・問い合わせ件数は、1902件と、前年度比788件の増となり、区民の権利擁護センターへの期待が高いことが伺えます。 ・福祉サービス利用援助事業の実務に携わる生活支援員の登録者数が21人となり、担い手が増え、利用者増に対応できる体制となっています。 ・パンフレットを福祉サービス事業者、金融機関、医療機関、行政機関に配布し、サービスを必要とする区民が身近な場所で情報を得られるように配慮しました。 | 【成果】 | <ul style="list-style-type: none"> ・25年度に引き続き、パンフレットを福祉サービス利用者、金融機関、医療機関、行政機関、約300か所に配布し、区民が情報を得られるよう配慮しました。 ・26年度の相談・問い合わせ件数は、2578件と、前年度比676件の増となり、区民に権利擁護センターの周知が進んでいることが伺えます。 ・福祉サービス利用援助事業の利用件数が13件増となっており、区民、特に福祉関係者に事業の周知が浸透していると思われる。 |
| 【課題】 | 福祉サービス利用援助事業/財産安全管理サービスの利用者数が微増に留まっています。文京区内の高齢者・障害者数から推測すると、サービスを必要としながらも、利用に結びついていない方も多いため、周知のあり方を工夫し、継続的な周知活動を行います。 | 【課題】 | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用援助事業の利用者増に伴い、対応困難ケースが増えていきます。 ・26年度は、法人後見の新規受任がありませんでした。区長申立者や福祉サービス利用援助事業利用者で、適切な後見人等が得られない人に、法人後見の利用を勧めるべく努力を行います。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | B | B |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①成年後見学習会で、親族後見人を対象とした企画を実施し、親族後見人の日頃の悩みや、後見事務の疑問点についての意見交換や、講師からの助言の機会となりました。 | |
| ②福祉サービス利用援助事業及び財産安全管理サービスに携わっている生活支援員は、現在20人が活動中であり、その内、法人後見ケースについても5人の方が活動中です。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | 各事業の啓発周知、利用件数の増加に努めます。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 社会福祉協議会補助の増 343千円 (主な増減 ①財産保全福祉サービス利用援助事業費の増 74千円 ②法人後見事務費の増 130千円) |
| | | ③ 所要人員の考え方 予算、決算事務、補助金の支出・精算等 1人×0.05人 |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【B様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|------------------------------|
| 事業番号 | 087 | 事業名 | 地域包括支援センター（高齢者あんしん相談センター）の充実 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【小項目】 |
| | 福祉・健康 | | 地域包括ケア |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、総合相談や包括的・継続的ケアマネジメント支援等を実施し、医療や介護の専門職、地域の様々な社会資源を統合し、地域包括ケアシステムの構築を進める高齢者あんしん相談センターの充実を図ります。 | | |
| 手段 | 分室を含め、8つのセンター全体で、必要な相談支援が円滑に行えるよう、職員体制を整備し、研修等によるスキルアップに努めます。実態把握等により、地域のニーズと課題を洗い出し、専門職の連携と地域住民との協働による取り組みで住みよい地域づくりを進めます。あわせて、高齢者あんしん相談センターの周知活動を継続して実施します。 | | |

| 2 取組状況 | |
|--------|--|
| 25年度 | 大塚、本富士、駒込地区にそれぞれ分室を設置し、運営を開始しました。相談実人数は、平成24年度の9,410人から10,254人と約9%増加しました。高齢者虐待予防のための啓発講座を事業所連絡会の通所部会及び地域のデイサービス事業所17か所に実施しました。ケアマネジメント支援では、都立松沢病院長の講座を企画し85人のケアマネジャーの参加を得ました。また、各センター独自でケアマネジャーとの事例検討や交流を実施しています。二次予防のアセスメントは、平成24年度の492件から522件とわずかに増加しましたが、介護予防支援は、平成24年度の758件から840件と引き続き増加しています。安心ネット連絡会の開催、老い支度等の講座開催、熱中症予防、認知症家族交流会や介護者教室の開催など地域における活動も積極的に実施しました。 |
| 26年度 | 礪川地域活動センターに富坂分室を移設しました。センター全体の相談実人数は、10,814人で前年度より約5.5%増加しました。来所相談が25年度の5,976件から6,817件に伸びており、分室設置の効果と考えています。ケアマネジャーとの勉強会等が定着し、ケアマネジメント力の向上に繋がっています。二次予防事業のアセスメントは、新規対象者が減少したこともあり522件から383件に減少しました。一方介護予防支援は、平成25年度の840件から936件と更に増加しています。各圏域に認知症コーディネーターを配置し認知症支援に取り組みました。また小地域ケア会議の実施、あんしんネット連絡会、熱中症対策、小中学校での福祉教室、サロン事業等における老い支度講座など、地域における活動も多彩に展開しています。 |
| 27年度 | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|---------|--------|--------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 213,695 | 48,035 | 38,756 | 46,058 | | |
| 特定財源 | 171,491 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 42,204 | 48,035 | 38,756 | 46,058 | | |
| 所要人員 B | 1.50 | 1.50 | 1.50 | 1.50 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 10,302 | 10,221 | 10,149 | 10,416 | | |
| 総経費 E=A+D | 223,997 | 58,256 | 48,905 | 56,474 | | |

| 4 評価 | | | |
|--|--|------|------|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| 【成果】 分室の整備を完了し、各圏域に2か所、全8か所の相談窓口の設置を実現しました。相談者の実人数が1万人を超えました。 | 【成果】 分室の周知に努めた結果、来所相談の割合が伸びています。また、礪川地域活動センター（区施設）への分室移設は、初の試みであり、地域活動センターと連携した活動も予定されていることから、地域包括ケア確立の大きな力になると考えています。 | 【成果】 | |
| 【課題】 分室設置に職員の増員が追い付いていないため、センターによっては多少手薄な状況も生じています。業務の幅が大きく広がっており、その分実態把握数が伸び悩む傾向にあります。 | 【課題】 区の条例で、各圏域に1名のセンター長配置と必要な職員の配置について定められました。また、地域包括ケア推進委員会にセンターの評価部会を設置します。安定的な職員数を確保するとともに、経験が浅い職員に対する研修等で相談対応の質を維持、向上することにより、委員会の評価に応える運営が求められています。 | 【課題】 | |
| 達成度 | | | |
| | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
| | A | A | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|---|
| ①分室設置に伴い、「より身近に相談窓口ができて安心している」等の区民の声をいただいています。 |
| ②高齢者あんしん相談センターの公平な運営を確保するために、地域包括ケア推進委員会を設置しています。同委員会には、公募の区民委員のほか多くの区民に関わっていただいています。 |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 改善・見直し | 地域包括ケアシステムの構築のための取組みの他、介護保険法改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業へ速やかに移行できるよう、準備を進めます。 |
| | | ② 当初予算の増減内訳 職員数に応じた委託費の減 △2,776千円 相談業務の増 395千円 介護予防業務の減 △1,585千円 分室経費の減 △3,053千円 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ③ 所要人員の考え方 職員1.5人 |
| | | ④ 現状維持の理由 |
| 28年6月末 | | |

平成27年度 事務事業評価表【B様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|------------|
| 事業番号 | 088 | 事業名 | 医療と介護の連携強化 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 地域の医療関係者と介護サービス事業者との連携を強化し、切れ目のない医療・介護サービスを提供するためのネットワーク構築を目指します。また、日常的な相談業務等を通じ、医療や介護についての周知を広め、必要な時に適切なサービスが受けられるよう環境の整備に努めます。 | | |
| 手段 | ①病院から退院する高齢者の在宅における介護環境の調整、②在宅療養資源の把握に努め、ケアマネジャー等に対する、医療的支援に必要な情報の分かりやすい提供、③区内高齢者及びその家族の療養・介護生活の向上を図るため、病院の医療連携室、介護保険事業者等との必要に応じた情報交換等について高齢者あんしん相談センターに委託して実施します。また、文京区地域医療連携推進協議会において福祉ニーズを提案し医療連携の施策につなげていきます。 | | |

| 2 取組状況 | |
|--------|---|
| 25年度 | 医療連携推進員配置事業の最終年に当たり、平成25年11月に「介護と医療は同じチームです」と題し、2日間に分けてケアマネジャーと医療関係者の交流会を実施しました。その際、55事業所から74名のケアマネジャー、26医療機関から36名の医師、看護師、医療相談員等が参加を得ました。また、アンケート結果から「連携に役立った」等の意見を数多くいただきました。また、平成26年2月、シビックセンター小ホールで「医療・介護 上手な付き合い方」と題し区民向けの講演会及びパネルディスカッションを開催しました。アンケート結果では、医療や介護保険について非常にわかりやすかったとの感想をいただきました。 |
| 26年度 | 平成26年度は、555人（ご本人、ご家族、医療関係者、ケアマネジャー等）から延1,195件の相談に対応しました。各高齢者あんしん相談センターは、地域におけるケアマネジャー交流会や地域ケア会議等を、医療連携も課題に取り上げ実施してきました。本富士と駒込が共催した第1回本郷地域交流会は、「多職種の連携・顔の見える関係作り」をテーマに実施し、文京区歯科医師会の講演と交流会に129人が参加しました。また、地域医療連携推進協議会の在宅医療検討部会の下に設置された医師、コメディカル、生活支援の3つのグループワークのうち、生活支援のグループに介護事業者とともに高齢者あんしん相談センター長が参加し、在宅医療の課題と方向性について検討しました。 |
| 27年度 | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 14,400 | 2,400 | 2,400 | 2,400 | | |
| 特定財源 | 10,000 | 0 | 0 | 0 | | |
| 一般財源 | 4,400 | 2,400 | 2,400 | 2,400 | | |
| 所要人員 B | 0.50 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 3,434 | 1,363 | 1,353 | 1,389 | | |
| 総経費 E=A+D | 17,834 | 3,763 | 3,753 | 3,789 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 平成24年度の医療関係者との交流会やケアマネジャーに対する講演会、平成25年度に実施したケアマネジャーと医療関係者との交流会等により、連携は強化できたと考えています。 | 【成果】 | センターとして医療連携相談に適切に対応するとともに、さまざまな機会を通じて関係機関の連携強化に取り組んだことにより、ネットワークの強化など在宅療養環境の整備に寄与することができました。 |
| 【課題】 | ケアマネジャー、医療関係者双方から交流会や講演会等の継続的な開催を望む声があります。医療と介護の連携について、今後高齢者あんしん相談センターの全職員で対応するため、職員のスキルアップが欠かせません。新たに設置された地区医師会の在宅療養相談窓口との連携等、引き続き文京区地域医療連携推進協議会において福祉分野におけるニーズを提案することが必要です。 | 【課題】 | 介護保険法の改正により、医療連携業務は地域支援事業に位置づけられ、区として総合的な対応が求められています。これについては、地域医療連携推進協議会における在宅医療検討部会との連携を図るため、地域包括ケア推進委員会に専門部会を設置し、委員を兼務することで、保健医療計画と高齢者・介護保険事業計画との整合性を図りながら事業展開していく必要があります。 |
| 達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | A | A |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|---|--|
| ①医療連携にかかる相談では、ご本人、ご家族からの相談がもっとも多く、医療的相談もありますが、退院に際して介護保険の利用方法など在宅療養に関する仕組みについての相談がもっとも多くなっています。 | |
| ②医療・介護関係者には、相談支援の窓口で連携するとともに、検討会にも参画してもらっています。 | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|--------|---|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 改善・見直し | 介護現場での退院支援等の相談に積極的に取り組みます。また、医療介護連携専門部会（地域包括ケア推進委員会）を新たに設置し、在宅医療検討部会（地域医療連携推進協議会）と委員を兼ねることで医療連携強化に取り組めます。 |
| 27年6月末 | 改善・見直し | ② 当初予算の増減内訳 増減なし。 |
| 28年6月末 | | ③ 所要人員の考え方 1人×0.2=0.2人 ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|----------|
| 事業番号 | 089 | 事業名 | 地域医療連携推進 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（保健医療計画） | | |
| 所管 | 保健衛生部 | 健康推進課 | |
| 目的 | 区民に切れ目ない医療を確保するため、区内の医療機関の役割分担を明確にし、かかりつけ医・歯科医・薬局の定着、高齢者の病院からの円滑な退院や在宅医療の推進等、地域医療の連携を強化します。 | | |
| 手段 | 地域医療連携推進協議会及び協議会の下に設置する検討部会を開催し、地域医療の供給において課題となっている医療機関同士の連携について検討を行います。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|---------------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 地域医療連携推進協議会開催 | 回 | 1 | 2 | 1 | 50% | 2 | | | 2 |
| 小児初期救急医療検討部会開催 | 回 | 1 | 2 | 1 | 50% | 2 | | | 2 |
| 高齢者・障害者口腔保健医療検討部会開催 | 回 | 1 | 2 | 1 | 50% | 2 | | | 2 |
| 在宅医療検討部会開催 | 回 | 2 | 4 | 7 | 175% | 4 | | | 4 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | 1,848 | 5,858 | 2,732 | 6,342 | | |
| 特定財源 | 0 | 712 | 711 | 1,000 | | |
| 一般財源 | 1,848 | 5,146 | 2,021 | 5,342 | | |
| 所要人員 B | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | | |
| 職員1人給与 C | 6,868 | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | 2,747 | 2,726 | 2,706 | 2,778 | | |
| 総経費 E=A+D | 4,595 | 8,584 | 5,438 | 9,120 | | |

| 4 評価 | | | |
|-----------|---|------|---|
| 事業の成果及び課題 | | | |
| 26年度 | | 27年度 | |
| 【成果】 | 地区医師会及び歯科医師会、薬剤師会、区内大学病院、その他関係医療機関からなる協議会・検討部会を開催し、地域医療連携について検討しました。また、在宅療養について、専門的な観点から具体的な課題の抽出と解決の方向について協議するため、在宅療養検討部会に研究会（医師グループ、看護地等グループ、生活支援グループ）を設置し、各2回開催して一定の方向性を取りまとめ、在宅医療検討部会で検討しました。 | 【成果】 | 地区三師会、区内大学病院、その他関係医療機関からなる協議会、検討部会を開催し、地域医療連携について検討しました。また、在宅療養について、専門的な観点から具体的な課題の抽出と解決の方向について協議するため、在宅療養検討部会に研究会（医師グループ、看護地等グループ、生活支援グループ）を設置し、各2回開催して一定の方向性を取りまとめ、在宅医療検討部会で検討しました。 |
| 【課題】 | 疾病を抱えても住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、地域の医療関係者と在宅医療連携の具体的な方策を協議して連携を進めるため、より専門的な観点から検討を行う研究会（ワーキンググループ）を設置する必要があります。 | 【課題】 | 平成26年度に開催した研究会で整理できた課題や解決の方向性を基に、医療と介護の両方を必要とする高齢者等が、病院から円滑に退院し、安心して住み続けられるよう取り組みを進めています。また、医療と介護の連携を推進するために、7月の改選に伴い在宅療養検討部会を医師・看護師等・生活支援等の職種構成比を改めるとともに、地域包括ケア推進委員会に設置される医療介護連携専門部会と兼ねる形で実施していきます。また、文京かかりつけマップを全面改訂し、最新情報を掲載します。 |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 |
| | | C | B |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 | |
|----------------------------------|--|
| | |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|--|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | 平成26年度の研究会で抽出した課題について、協議会、検討部会で更に検討し、取組みを進めていきます。また、かかりつけマップの全面改訂を行います。 |
| 27年6月末 | 拡充 | ② 当初予算の増減内訳 在宅医療研究会終了等による報償費の減 △1,830千円 検討部会用茶の計上及び単価改訂による食糧費の増 13千円 在宅医療研究会終了等による役務費の減 △528千円 かかりつけマップ作成に伴う一般委託費の増 2,829千円 ③ 所要人員の考え方 0.2×2人=0.4人 |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 |

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

| 1 事業の概要 | | | |
|------------|---|-------|--------------|
| 事業番号 | 090 | 事業名 | 認知症施策の総合的な推進 |
| 基本構想上の位置付け | 【大項目】 | | 【中項目】 |
| | 福祉・健康 | | 高齢者福祉 |
| 個別計画 | 文京区地域福祉保健計画（高齢者・介護保険事業計画） | | |
| 所管 | 福祉部 | 高齢福祉課 | |
| 目的 | 地域で医療、介護サービス、見守り等の日常生活の支援サービスが包括的に提供される体制を整え、認知症の方や家族が、住み慣れた地域で安心した暮らしを続けることができる環境を整備します。 | | |
| 手段 | 認知症予防のための各種事業、認知症高齢者等の初期対応の充実等及び関係機関との連携等を進めます。 | | |

| 2 事業の指標 | | | | | | | | | |
|----------------|----|------|------|----|------|------|----|-----|------|
| 指標名 | 単位 | 25年度 | 26年度 | | | 27年度 | | | 28年度 |
| | | 実績 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 | 実績 | 達成率 | 計画 |
| 講演会・研修会開催回数 | 回 | — | 8 | 6 | 75% | 8 | | | 8 |
| 認知症相談会開催回数 | 回 | — | 12 | 20 | 167% | 12 | | | 12 |
| 認知症サポーター養成講座回数 | 回 | 52 | 50 | 53 | 106% | 50 | | | 50 |
| 認知症家族交流会回数 | 回 | 13 | 12 | 12 | 100% | 12 | | | 12 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| 3 コスト | | | | | | |
|-----------|------|--------|--------|--------|----|------|
| 単位：千円 | 25年度 | 26年度 | | 27年度 | | 28年度 |
| | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 | 実績 | 当初予算 |
| 事業費 A | | 22,215 | 16,347 | 23,235 | | |
| 特定財源 | | 13,500 | 7,781 | 12,671 | | |
| 一般財源 | | 8,715 | 8,566 | 10,564 | | |
| 所要人員 B | | 1.70 | 1.70 | 1.60 | | |
| 職員1人給与 C | | 6,814 | 6,766 | 6,944 | | |
| 人件費 D=B×C | | 11,584 | 11,502 | 11,110 | | |
| 総経費 E=A+D | | 33,799 | 27,849 | 34,345 | | |

| 4 評価 | | | | | |
|-----------|---|------|------|------|--|
| 事業の成果及び課題 | | | | | |
| 26年度 | | 27年度 | | 28年度 | |
| 【成果】 | <p>新たに設置した認知症コーディネーターが155件の相談支援と39件の訪問支援を、囃託医が29件の「もの忘れ医療相談」対応と7件の訪問支援を行いました。また、跡見学園女子大学と協働開催した認知症講演会・シンポジウムや認知症に関する介護予防講演会など6回の講演会を開催し、計479人の参加がありました。なお、計画8回に対する実績6回の理由は、事業立上げに際し一層効果的な周知を図るため、一部講演会を統合し、規模や内容を充実した認知症講演会・シンポジウムとしたためです。さらに、3種類のパンフレット等による普及啓発、全ての日常生活圏域での認知症カフェの実施、計1,186人の認知症サポーターの養成のほか、認知症予防教室では計368人の参加がありました。</p> | | 【成果】 | | |
| 【課題】 | <p>課題であった認知症ケアパスの作成及び認知症による行方不明者対策については、何れも27年度重点施策として、認知症ケアパスの作成は本事業において、行方不明者対策は本事業とは別に新たな事業として実施します。また、認知症サポーターについては、さらなる活用余地があると認識しており、普及啓発の徹底や役割の再検討により、一層の活用を図っていきます。さらに、若年性認知症対策や認知症初期集中支援チームの設置について、先進事例の研究や既存事業の検証等を通じた検討を行います。</p> | | 【課題】 | | |
| 指標達成度 | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | |
| | | | B | | |

| 5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況 |
|--|
| <p>①認知症は早期に発見し、早期に治療することで改善したり、進行を遅らせることが可能な場合があるという事は意外と知られていないと思うので周知してほしい（認知症講演会・シンポジウム参加者）。</p> <p>②本事業の実施にあたっては、区民公募委員を含む地域包括ケア推進委員会に報告し、意見を伺いました。また、認知症講演会・シンポジウムを跡見学園女子大学との協働により開催し、区内で学ぶ学生の協力を得て実施しました。なお、27年度の認知症ケアパスの作成検討体制の構築にあたっては、認知症介護者の視点も考慮の上、区民参画を図ります。</p> |

| 6 今後の方向性 | | |
|----------|-----|---|
| 時点 | 方向性 | ① 事業の展開内容 |
| 26年6月末 | 拡充 | <p>上記課題の認識に基づき、認知症ケアパス作成における施策の方向性に加え、認知症サポーターの一層の活用や認知症カフェの拡充などの事業展開を図っていきます。</p> <p>② 当初予算の増減内訳</p> <p>認知症ケアパス作成・普及事業費（27年度重点施策）の増 6,141千円 認知症パンフレット作成費の減 △1,533千円 認知症予防教室会場数の減による委託費等の減 △854千円 等</p> |
| 27年6月末 | 拡充 | <p>③ 所要人員の考え方</p> <p>1人×0.2+1人×0.5+1人×0.3+1人×0.6</p> |
| 28年6月末 | | ④ 現状維持の理由 |